

ぼくのマイブーム

奈義町立奈義小学校

四年生 中川 敢 太

キーンコンカンコン。やったあ。待ちに待った昼休みだ。

「今日は何の技をする。」

「グライダーしようや。」

友だちと打ち合わせをしながら、急いでぼうしをかぶる。ろう下は走らないように早歩き。ようやくくつをはいたら、レンガ広場を通過して目的の場所まで全カダッシュだ。

よしっ。まだ、だれも来てない。ぼくは、心の中でガッツポーズをした。運動場のはしっこ。左から五番目。こいつとぼくは、相しようがいい。だからいつもこのてつぼうを選ぶ。

そう、ぼくのマイブームは、てつぼうだ。きっかけは、体育

のじゅ業。てつぼうなんてようち園ぶりだったぼくは、そんなのよりドッジボールがしたいな、と思っていた。最初にやったのは、ぶら下がりや前回り。こんなの簡単だ、とぼくは心の中で思った。でも、その時となりのこはるさんが、てつぼうを反対向きに持ち、ジャンプして空中で一回転し、かれいに着地した。

「今、何したん。」

「しりぬきっていうんで。」

ぼくが思わず聞くと、こはるさんが教えてくれた。その後こはるさんは、先生に言われてみんなの前でもその技を見せた。

「おれ、他の技もできるで。」

だれかが、大きな声で言った。ぼくは心の中であせった。なぜならぼくは、前回りとさか上がりしかできなかったからだ。そもそも、てつぼうに他の技があることも知らなかった。『足かけ回り』に『地球回り』、『かかえこみ回り』に『地ごく回り』友だちがどんどん技をきめていく。全部初めて見るし、初めて聞く技だった。

その日からぼくはてつぼうにむ中になった。外に行ける時間は、いつもてつぼうをやった。友だちがやらない日は、一人で

もやった。雨でてつぼうができない日には、机つくえと机の間に立って、体を持ち上げる筋きんトレをやっていた。家では、インターネットでてつぼうの技を見て研究した。お風呂の中でも、ねる前もてつぼうのことばかり考えていた。そしてとにかく練習をたくさんした。両手には、十こくらいまめができ、そのまめがつぶれていたかった。特に手を消しょうどくするときは、ぎゃあとさけんでしまうくらいにいたかった。てつぼうから何度も落ちた。頭を打って、あまりのいたさに泣いてしまったこともある。そのときは大きなタンコブができた。

その成果せいかもあって、ぼくはいろいろな技ができるようになった。前・後連続れんぞく回り、かかえこみ前回り連続、足かけ前・後連続回り。書き切ることができないほど、たくさんある。

今では自分でてつぼうの技を考えたり、技を組み合わせたたりして、何回連続で、技を出せるかも友だちと競きそい合いながら、新記録しんきろくを出そうとがんばっている。

「すげえ、おれにも教えて。」

友だちからそう言われることが多くなった。だんだんとてつぼうをやる人も多くなった。前までは、だれもてつぼうをやらなくて、てつぼうはグラウンドのすみっこでさびしそうだった。

でも今では、順番待ちじゅばんまちの列ができるほど、てつぼうは人気スポットになった。そのことがぼくはとてもうれしい。

「かんちゃんはすごいなあ。」

そう言われるのもうれしい。でも、まだまだできない技もある。今特訓とくくんしているのは、『えび上がり』と『けんすいさか上がり』この技は、うでの力がとてもいるのでぼくは毎日家のかべを使って、筋トレをしている。

てつぼうはぼくにあきらめず努力どつりょくすること、そして成功こうこうしたときの大きな達成感たっせいを教えてください。なにごとにも同じようにチャレンジしていきたい。

いつか全ての技をマスターして、てつぼう名人とよばれるように、ぼくは今日もてつぼうへと走っていく。